

# 金沢大学

## 研究協力校（課程又は障害種）

- ・金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校（知的）

## 研究の成果

### 観点Ⅰ：

#### 各モデル事業内、及び近隣自治体間における概念（用語）の共通理解・合意形成

##### Ⅰ. 地域・人との共通理解・合意形成

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校では、知的障害のある児童生徒が、地域社会で様々な人と関わりながら学ぶ共同及び交流学习の推進、知的障害児の学ぶことの楽しさを育む授業づくり、地域・人との関わりの中で伝え合う喜びを育む授業づくりの実践を目的として研究を行っている。これらについて作成した学校研究成果報告書を用いて、研究フォーラムや教育研究会などを行い、参加した地域の人たちや近隣の小中学校との共通理解、合意形成をはかっている。

**観点 2 :**

**教育課程・個別の指導計画の実施状況とその評価**

**2. 「生きる力」の設定**

金沢大学附属特別支援学校は、心身の発達に遅れや障害のある児童生徒に対して、その実態に即した指導を行うことにより、一人一人の全面的な発達をうながし、その子らしく精一杯「生きる力」を育てることをめざしている。

生きる力とは地域の中で自立・自己実現できる力であり、それを個々の能力(知識・技能)・強み(得意な事)の育成、充実感や感謝、また達成感や喜びといったポジティブな感情(自己肯定感)を高め、地域・人とのつながりを大切にす姿勢の育成、これらを各学部でつきたい力として具体的に設定している。小学部では自分を表現する力、中学部では相手に発信する・はたらきかける力、高等部では卒業後に活かせるコミュニケーション力、各学部でつきたい力を設定し、それらに合わせて授業を組んでいる。また、個別の指導計画に関して、学習内容シートでの評価の積み重ねにより、それぞれの生徒に合わせた授業の改善を行っている(資料1)。

算数科(小学部)アセスメントシート			教師による評価(たとえ1度でも出来たならば、達成可能の評価)					
			事前アセスメント	1学期目標	2学期目標	3学期目標	最終評価	評価コメント
1段階	A 数量の基礎	ア 身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることなどができる						
	B 数と計算	ア ものの有無や3までの数的要素に気付き、身の回りのものの数に関心をもって関わるなどができる						
	C 図形	ア 身の回りのものの上や前後、形の違いに気付き、違いに応じて関わるなどができる						
	D 測定	ア 身の回りがあるものの量の大きさに気付き、量の違いについての感覚を養うとともに、量に関わるなどができる						
		・ 変化と関係						
		・ データの活用						
2段階	A 数量の基礎	ア 10までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わるなどができる						
	B 図形	ア 身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して、図形の違いが分かる。						
	C 測定	ア 身の回りがある具体物の量の大きさに注目し、量の大きさの違いが分かるとともに、二つの量の大きさを比べることができる						
	C 変化と関係	ア 身の回りのものや身近な出来事の変化や順序などを用いた表やグラフ						

学習指導要領の見方・考え方、指導内容が記述されている

児童生徒の学習の習得状況を把握する

資料1 「何を学ぶか」指導内容を検討(見方・考え方)

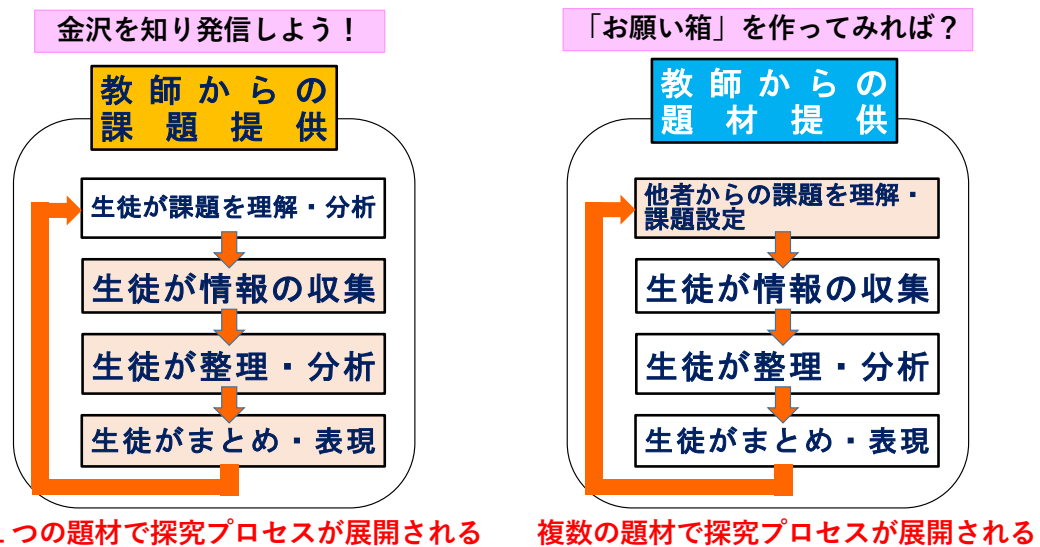
観点 3 :

個のニーズにあわせた指導法、学習環境・支援の工夫

3. 総合的な学習の時間、授業の流れ

文部科学省が示す探求プロセスは、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現と提示している。金沢大学附属特別支援学校は、それらを、知る、学ぶ、発信するといった生徒が何を学んでいるのかを簡単な言葉で表現することによって理解を促している。

中学部で設定した相手に発信する・はたらきかける力に合わせて、生徒の興味に合わせて二つのテーマで総合的な学習の時間を設定した。「金沢を知り発信しよう」では、教師からの課題提供から、生徒が課題を理解・分析、生徒が情報の収集、生徒が整理・分析、生徒がまとめ・表現といった1つの題材で探究プロセスが展開されている。「お願い箱」を作ってみれば」では、教師からの題材提供によって、他者からの課題を理解・課題設定、生徒が情報の収集、生徒が整理・分析、生徒がまとめ・表現といった複数の題材で探究プロセスが展開されている（資料2）。



資料2 総合的な学習

#### 観点4：

#### 障害のない幼児児童生徒・地域社会との交流及び共同学習の設定

#### 4. 学習環境の重要性

金沢大学附属特別支援学校では、地域・人との関わる授業を複数回にわたって行っている。地域との学習は、生徒の知識が更新され、学ぶ楽しさを知り、生徒同士で共に伝え合い、新しい技術を習得することにつながっている。小学部では、父母参加型の学習、中学部との交流学习、附属幼稚園や地域の保育園との交流学习、地域及び保護者との防災学習が行われている。地域の交流に関しては、金沢には昔から職人が多く、職人との技術指導等の交流を行っている（資料3-1, 2）。

また、幼稚園や他大学の特別支援学校との交流の際には、ICT機器を活用して事前にweb会議システムを用いて生徒同士でお互いを理解してから交流を行っている。



資料3-1 地域住民との防災学習



資料3-2 紙細工職人から指導を受けて和紙の名刺入れを製作

#### 観点5：

#### 多面的な視点からの学習評価・授業評価・学校評価の実施

#### 5. 公開授業や教育研究会による外部からの評価

公開授業等による保護者、地域住民等によるアンケート評価を行っており、参観者からは概ね本校の取組を評価できるという回答を得ている。また、大学教員を招いて研究授業についての助言を受けている。金沢大学附属特別支援学校で教育研究会を行い、県内外からの参加者にアンケート調査を行っている。研究報告に関する質問では、多くの参考になったという回答を得ている。学校研究協力者会議による第一年次最終評価では、地域・人との継続した関わりの重要性についての意見が出されたものの、概ね良好との評価を得ている。

## 観点 6：

### 新学習指導要領に対応した特色ある取組

#### 6-1. 「主体的な学び」「対話的な学び」に独自の定義付け

「主体的な学び」「対話的な学び」を児童生徒の実態に合わせた金沢大学附属特別支援学校独自に定義付けを行っている。主体的な学びは、学ぶ対象や学ぶこと自体に興味や関心を持ち、次へ学習につなげる楽しさを経験できる学びとして「学ぶ楽しさ」と定義、対話的な学びは、学んだことを共有したり、協働したりし、自己の考えを広める喜びを経験できる学びとして「伝え合う喜び」と定義している。これにより、授業づくりの際の「学び方」を構築する観点が明確になっている。

#### 6-2. 従来地域との交流からの発展

特別支援教育に関する実践研究充実事業を行うことにより、従来地域との関わりから、より強く地域を絡めて新しいものを提供していく、生徒が新しいことを考えていくことを重要視して取り組んでいる。防災学習では地域の消防署やゲーム制作会社と共同で行うことによってリアリティのある防災訓練を行ったり（資料4）、地域の新聞社による「新聞づくり」講座では、取材の仕方等を教わり、学んだことを新聞づくりによって表現したりといった活動を行っている。



資料4 地域の消防署・ゲーム制作会社との防災学習